

ウンカ情報第3号

平成24年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 セジロウンカの発生状況

7月上旬の本田調査（捕虫網による20回振り）では、成虫が過去10年で最も多く、幼虫が過去10年で3番目に多く捕獲されました。

7月下旬の本田調査（粘着板による10株の払い落とし及び捕虫網による20回振り）では、県内全域の59ほ場（106ほ場調査）で成虫及び幼虫が捕獲され、全体的には平年並の捕獲数になりました（表）。しかし、幼虫の捕獲数は平年に比べやや多い状況なので、引き続き注意が必要です。

県内各地に設置した予察灯においても成虫の誘殺を確認しており、誘殺数は平年並に推移しています。

表 セジロウンカの本田調査結果（平成24年7月下旬調査 単位:頭）

調査方法	成虫	幼虫	計
粘着板による10株の払い落とし	0.57 (0.56)	2.77 (2.04)	3.34 (2.60)
捕虫網による20回振り	0.75 (1.67)	3.11 (2.20)	3.87 (3.88)

注1) () 内数値は平年値（平成14～23年の平均）

注2) 106ほ場での平均

2 トビイロウンカの発生状況

県内の予察灯で成虫（図1）は誘殺されておらず、本田調査でも発生を確認していません。しかし、7月に入ってから奈良県や広島県など、九州、四国地域以外の予察灯でも誘殺されています。また、熊本県合志市では7月14日に139頭と大量に誘殺されています。今後の気象条件によっては、飛来して被害（図2）が発生する可能性があるため、予察灯の誘殺状況など今後の情報に注意してください。



図1 トビイロウンカ成虫



図2 トビイロウンカ被害による坪枯れ